科目ナンバリング	U-LAS02 20004 LJ35						
授業科目名 <英訳>	創造ルネッサンス論Ｂ Art History B			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　田口　かおり		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2026・後期	曜時限	水4	配当学年	２回生以上	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

私たちはしばしば、美術作品を「読む」という言い方をする。美術作品が「見る」のみならず「読む」対象となりうるのは、何故だろうか。作品を「読む」こと。それは、作品の情報を収集し、整理し、再構成しながら、作品の遍歴と物語を辿る作業である。
制作者、技法、寸法や制作年にはじまり、収蔵先、所蔵者および展示の履歴、修復記録など作品に関連する情報は無数に存在する。これらの情報は、時に、肉眼では見ることのできない在り方で私たちの前に立ち現れることがある。本授業では、主に保存修復学的な手法を用いてさまざまな西洋美術作品（主に絵画）の歴史を読み解き、作品の内外に紐づけられている情報の鉱脈を探り、解釈を重ねることを試みる。

[到達目標]

1. 芸術学特有の基本的な用語や考え方を理解する
2. 作品に親しみ、名称、作者、時代、表現の特徴や影響関係について理解し、知識を深める
3. 1と2を踏まえて、それぞれの作品及び作者の個性や、時代、社会との関わりなどについて考え、自らの言葉で説明することができる力を身につける
4. 情報の収集の仕方、また、確実な情報に基づく調査研究の方法を学び、自らの考えを論理的に組み立てる方法を実践的に身につける

[授業計画と内容]

第1回：イントロダクション
第2回：ヨハネス・フェルメールの下層――キューピッドの再登場
第3回：パブロ・ピカソと主題の変更――支持体のリサイクル
第4回：ジョルジュ・ルオーと制作のプロセス――作品はいつ「完成」するのか？
第5回：ディエゴ・ベラスケスとヴァンダリズム――切り裂きと塩酸
第6回：レンブラント・ファン・レイン作品の再創造――AIの自画像
第7回：クロード・モネと半壊した画布――返却された絵画の修復
第8回：フランシスコ・デ・ゴヤの下層――「黒い絵」シリーズをめぐって
第9回： ヴィンセント・ファン・ゴッホと遠近法――定められたイメージを超えて
第10回： ウィリアム・ターナーとジョン・コンスタブル――裏面の記述
第11回：レオナール・フジタの乳白色――レシピの再現
第12回：エドヴァルド・ムンクの作品保管法――損傷の予知
第13回：ピエト・モンドリアン――構図の変更
第14回：ゲルハルト・リヒターの写真と描画――作品の制作過程を考える
第15回：フィードバック

創造ルネッサンス論Ｂ(2)へ続く↓↓↓

創造ルネッサンス論Ｂ(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

成績は平常点５０％（毎回授業後のコメントシートの提出）、学期末レポート５０％で評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します

[その他（オフィスアワー等）]

授業前後の時間に対応します。
個別の連絡手段（メールアドレスなど）は初回の授業の際に伝えますので、必ず出席をお願いします。

[主要授業科目（学部・学科名）]